



発行者 時政大典  
編集者 照井邦彦  
遠藤洋  
関谷昌樹

## 15周年に寄せて

### 会長時政大典

OB会 設立の頃

この年(平成一三年)の5月をもって退職した私は何することなく、退職した仲間たちと、ブラブラと過ごしていた。私の日記帳によれば、OB会に関する件は、

○「八月一六日(木)

パソコンで福東OB会(案)を打ち込むも、最後にセーブせず!みんな消えてしまった。一時間もかかってバーカみたい!

アアア

○「八月二〇日(月)

午後保原工場にて大根田、照井、権藤、私で打合せ。渡辺所長と退職者



時政会長

リストの作成依頼したり。」

○「九月四日(火) 福東OB会の入会案内状作成」

○「十一月二八日(水)

大根田、照井、権藤、高橋、松野、私の6人でOB会打ち合わせ」その後関係者による打ち合わせを何回か続けていたと思われるが、記録に残っているのは、翌年である。

○「一月九日(木) 午後大根田、照井、権藤、

私で保原工場にて、事業所、組合にOB会の説明」

○「一月一九日(日)

保原公民館にて、関係者により、式次第、会場確認」

○「一月二六日(日)

保原公民館にて福東OB会設立総会。懐かしい顔、久しぶりの顔、どこかで見たような顔。東朋会から、水田さんが来賓として出席」

福東OB会  
15周年記念誌  
(きびたき32号)



15周年記念誌表紙  
イラスト: 時政会長

## 東朋会祝辞

理事長 香川修司

福東OB会15周年  
記念誌発行の  
お祝いの言葉

15周年の記念にお祝いの言葉を贈ります。

東朋会への参加は8年前になります。2010年に福島の保原工場がなくなるという話を聞いた東朋会では、福島で働く仲間、働いた仲間の抛り

所を創ろうと考え、労働組合の現役の役員・役員のOB達・そして福東OB会の役員の3者に話し合いをいただき、東朋会への地域組織へ統一しての参加を呼びかけました。その年の10月第2回東朋会総会にて参加の意思が承認され連携が始まりました。

東朋会活動参加への基本的な方針は①身分の分け隔てのない会であること。②単に老後の趣味の集まりではなく、セコンドライフの経済・健康・生きがい生活を充実する事。共済や福祉活動によるセーフティネットを創る事。社会的役割を果たしていく事。③そのための拠点を設立する事。そして仲間が参加しやすいように自主的活動をする事でした。



香川理事長

自立の考え方から出資・出捐する方針ですが、法人化できるまでは東朋会で福島基金を設定し毎年の支援をしています。

地域組織としては寒川OB会(現在は湘南OB会)・京浜OB会・栗橋会(2014年高齢化のため解散、財政は東朋会で引き継ぐ)についての福東OB会となりました。

東朋会への参加後、東北大震災に見舞われ、保原工場に次いで小高工場が閉鎖され、多くの仲間が山形酒田や信州の工場へ転勤になるか退職されました。そのうえ震災被害や放射能汚染で被害を受ける等、多くの試練に合われました。このような8年の中でも福東OB会の事務所を開設、労金労済活動にも取り組み、活動資金の確保にも努力してこられました。

これからも、分散した仲間が福東OB会をふるさとに帰って集えるよう、セコンドライフを充実する拠り所となるよう発展されることを祈ります。

福島東洋通信機  
福東OB会の思い出

## 回想記

松元義治

福東OB会設立15周年を迎えられ心からお祝申し上げます。

東日本大震災以降「絆」という言葉がメディアで持て囃されましたが、福島東洋通信機が消滅しただけに会社を支えた元社員OB会はまさに「絆」を象徴するものであると思います。

私は昭和57年(1982年)から平成5年(1993年)まで11年間福島東洋通信機に勤務しました。その間の思い出は到底語り尽きませんが、福島東洋通信機設立後水晶事業部の生産部門の相模から福島へ全面移管するまでの経緯が私としては最も印象深く感じています。



川崎バラ園にて